

兵庫県立福崎高等学校
図書だより



2024年 6月号

第70回青少年読書感想文コンクール課題図書はこの3冊!

感想文についての詳細は来月号でお知らせします。

図書室では本日より貸出開始します!!

<p>『宙わたる教室』 伊与原 新 著 文藝春秋</p> <p>「もう一度学校に通いたい」と定時制高校に集った生徒達。科学部を結成し、実験を通して一つになっていく——ドラマチックな青春科学小説!</p>	<p>『優等生サバイバル: 青春を生き抜く13の法則』 ファン・ヨンミ 作 キム・イネ 訳 評論社</p> <p>成績に一喜一憂する日々、はじめてのホントの恋! ハードな高校生活を生き抜くために、「優等生」のジュノが見つけた法則とは?</p>	<p>『私の職場はサバンナです!』 太田ゆか 著 河出書房新社</p> <p>南アフリカ政府公認のサファリガイドが伝えるサバンナの動物たちの生態、環境保護の最前線、自然と共生するために大切なこと。</p>

【図書委員からのおすすめ本 その2 今回は2・3組編です】

『我らが隣人の犯罪』 宮部みゆき著 (3-2図書委員・Nさんからのおすすめ)

〈あらすじ〉主人公・三田村誠は引っ越し先の隣に住む女性が飼っているスピッツ・ミリーの鳴き声に悩まされることになった。誠と妹の智子はおじさんと組んでミリーを誘拐する。

〈おすすめポイント〉有名な宮部みゆきさんの作品です!この一冊を読むだけでも言葉のひきだしが多くなるのでぜひ読んでみてください。

『高校入試』 湊かなえ著 (3-2図書委員・Kさんからのおすすめ)

〈あらすじ〉県下有数の公立進学校の入試前日、新人教師である春山杏子は「入試をぶつつぶす!」と書かれた貼り紙を見つける。入試当日。試験内容が次々とネット掲示板に実況中継されていく。教員たちは事件を解明しようとするが…。入試に関わる全員が容疑者?果たして犯人は?!

〈おすすめポイント〉受験を題材とした湊かなえ先生の有名な作品です!人間の本性に注目しながら読んでみてください。

『本屋で待つ』 佐藤友則・島田潤一郎著 (2-2図書委員・Sさんからのおすすめ)

〈あらすじ〉町の人たちがなんでも相談にくる山間の本屋「ウィー東城店」。地域の小売店の可能性とそこで成長する若者たちの姿を描く。

〈おすすめポイント〉この本を読んでみて、店が本を売るだけでなく、生活が成り立つように利益率も上げていて、自分はこういう本屋が身近にほしいと思ったので推薦します。

『青春を山に賭けて』 植村直己著 (2-2図書委員 Yさんからのおすすめ)

〈あらすじ〉兵庫県生まれの冒険家・植村直己。彼が生まれてから、世界初の五大大陸最高峰の登頂、アマゾン川のいかだ下りまでを自分自身の視点から書く、世界放浪記。

〈おすすめポイント〉未知のところを冒険するのって男の子のロマンじゃないですか。でも、そのロマンを一般人が体験するのは難しいですね。ただ、この本を読んだら、体験している気分になるので、楽しいですよ。

『D坂の殺人事件』 江戸川乱歩著 (1-2図書委員 Yさんからのおすすめ)
〈あらすじ〉 主人公は東京にある白梅軒という喫茶店で明智小五郎という探偵小説好きの妙な男と話していた。すると向かいの古本屋の様子がおかしい。なんとその店の妻が首を絞められて死んでいたのだ。
〈おすすめポイント〉 証拠がほとんどなく、ナゾの多い殺人事件で、警察も犯人を捕らえることができない中での推理が予想と違っておもしろい。

『ひとにぎりの未来』 星新一著 (1-2図書委員 Iさんからのおすすめ)
〈あらすじ〉 人間の脳波を調べ、最も食べたいと思っている料理を作っている「自動調理機」。遠距離通勤時代にうってつけ、眠っている間に会社まで運んでくれる「人間コンテナ」。判断に迷ったとき、たちどころに指示を与えてくれる「身上相談機」など——こんな便利なものが出来たら素晴らしいとお思いになるでしょう。未来社会の青写真、ちょっとのぞいてみませんか……。
〈おすすめポイント〉 この本はショート・ショートという、短い話が40話入っている本です。小説が好きな人はもちろん、この本のほかにもたくさんあるので、興味のある人はぜひ読んでみてください。

『おさらのぞうさん』 森山京 作 杉浦範茂 絵 (2-3図書委員・Tさんからのおすすめ)
〈あらすじ〉 マリちゃんがぞうさんのお皿をどのように使っていくかをたどる話。
〈おすすめポイント〉 ①絵がとてもかわいい。
②マリちゃんの感情が豊かでかわいい。
③ゾウとマリちゃんの両方がどちらもよいキャラをしている。
絵本です。どのような絵なのか気になった人は、図書室へどうぞ

『ツナグ』 辻村深月著 (2-3図書委員 Fさんからのおすすめ)
〈あらすじ〉 大切な人を亡くした者と、死者を一度だけ再会させる仲介人「ツナグ」という職業を通じて、他人の人生に深くかかわっていく青年の葛藤と成長を描く物語。
〈おすすめポイント〉 一つ一つのエピソードを丁寧につなぎ、完結させる辻村深月さんの高い技術が光る作品です。どのエピソードも内容が濃く、感動する物語になっています。現在、ツナグ「想い人の心得」が続編として出版されているので、すぐおすすめです。

『時給三〇〇円の死神』 藤まる著 (1-3図書委員 Tさんからのおすすめ)
〈あらすじ〉 高校生の佐倉真司は同級生の花森雪希から「死神」のバイトに誘われる。半年勤め上げればどんな願いも叶えてもらえるという話を聞き、死神バイトを始め……。
〈おすすめポイント〉 私たちと歳の近い少年と少女が中心になって進んでいくクスツと笑えるテンポ感のあるおはなしです。難しい内容という訳ではないですが、話が進んでいくにつれて胸がしめつけられるようにどことなく悲しくなっていくものになっています。登場人物が割と少ないので、人が多いと訳がわからなくなってしまう人や、複雑だと眠くなってしまう、という人にもオススメです。

『君たちはどう生きるか』 吉野源三著 (1-3図書委員 Tさんからのおすすめ)
〈あらすじ〉 知的好奇心旺盛な少年「コペル君」と、彼を亡き父親の代わりに見守る教養ある「おじさん」。コペル君は自分の見た情景や学校の友人たちの行動をきっかけに、哲学的な考えを深めていく物語。
〈おすすめポイント〉 私は本を読むのがあまり好きではないけど、この本はすらすらと読むことができたので、本を読むのがあまり好きではない人にもオススメです、と思いました。この本は「〇〇するな!」や「〇〇した方が良い」という答えではなく、「あなたならどうする?」「あなたならどう感じる?」という問いかけが多い本なので、たくさん考えながら読める本でオススメです。

みなさんの知恵を貸してください!

図書室改造計画を立てています。「こんな本があればいいな…」というリクエストだけでなく、「こんな図書室なら、毎日でも通いたい!」、「ちょっと寄ってみたい図書室はこんな感じ」、「こんなレイアウトなら使いやすそう!」など、ざっくばらんに図書担当の先生まで教えてください。